

## 二宮町総合戦略評価について（意見）

資料 1

「第2期二宮町総合戦略」に係る取り組みの令和3年度の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。9本の施策については、概ね順調であると評価できるものの、施設再編や子育て・教育、産業などの分野での取り組みの拡充を求める意見や、適正な評価を実施するための課題についての意見が見受けられました。第2期総合戦略の最終年度の取り組みや、新たな第3期総合戦略の策定に際し、本委員会の意見を参考に今後の地方創生に関する取り組みを推進していただければと思います。

各委員から様々な意見が出された中で、総論として、次の3点について、意見を述べさせていただきます。

1点目は、施策1-1に位置付けた新庁舎整備を含めた施設再編についてです。昨年度の意見書にも記載しましたが、新庁舎整備は町民の生命を守るために必要なものであり、大規模災害時も含めたライフラインの要でもあるため、早急に進めるべきです。推進にあたっては、過去の意見書や町側の説明のとおり、引き続き防災の視点だけでなく、福祉的視点も含めた行政サービスの充実や地域活性化等の視点も含めて説明し、町民の理解を得ながら公共施設の再配置を含めた持続可能なまちづくりを行ってください。

2点目は、施策1-2、1-3に位置付けた地域活動についてです。地域では伝統や慣習により相互扶助の取り組みが行われてきましたが、高齢化や独居世帯の増加などの影響を踏まえ、取り組みやあり方そのものを見直す必要があります。特に日中に活動できる役員や消防団員を確保するため、時代に沿った形で女性の登用を進めたり、中高生を含めた若い世代を巻き込む仕組みづくりを検討したりするなど、地域ごとの特性を踏まえたアプローチが必要です。また、見直しにあたり、新しい施策やツールを導入するだけでなく、継続性やコストも考慮し、元々あった制度や取り組みの良さを再認識し、再活用するなどの意識も必要です。

3点目は、施策や取り組みの進捗を確認するKPIの設定についてです。現在のKPIの設定では、施策の進捗が判断できなかつたり、ミスリードを招きかねないものがあったりするなど、課題が散見されます。統計資料のように必ずしも毎年把握できない数値や数値が把握しにくい成果など、取り組みによってはKPIの設定が困難なものがあることは認識するものの、様々な角度から成果を判断する複数の指標を設定し、よ

り深く施策の進捗が評価できる数値目標を設定する必要があります。また、一般町民にも施策の目的と成果が理解できるよう、施策と取り組み、KPI がどのようにつながっているのかをよりわかりやすく表す工夫も必要です。

最後に、本委員会の全体の議論が、本戦略で掲げる取り組みだけでなく、変化し続ける時代に柔軟に対応しつつも、持続可能で魅力あるまちづくりに資するよう、次期総合戦略の策定や関連する他の計画や取り組みにおいても PDCA サイクルとして活用されることを期待しています。